



苫小牧市議会議員

小山 征三

通信

『夏』号

2013. 7. 22

小山せいそう後援会

苫小牧市ときわ町1丁目19-23

TEL0144(67)8255

市立図書館条例の一部改正案が可決・・・

—— 多くの疑問点を残し、指定管理者の導入へ一歩踏み出す ——

第11回市議会定例会は6月20日(木)から6月28日(金)まで開かれ、議案16件、報告5件、陳情2件、諮問1件、要望意見書3件、決議1件を審議しました。

平成25年度補正予算では、防災ラジオ購入事業費1,811万3千円、保健センター建設に伴う環境保全課庁舎移転・解体事業費4,200万円、空き店舗活用型の地域コミュニティ創造事業に伴う緊急雇用創出事業費3,279万4千円、事業前倒しに伴う緑ヶ丘陸上競技場改修事業費2億4,400万円など総額8億5,247万5千円の増額を可決しました。

条例の一部改正では、図書館の指定管理を行う場合の業務範囲や管理基準を整備するための「苫小牧市立図書館条例」が賛成多数で原案どおり可決されましたが、疑問点を残したままの可決となりました。

昨年、図書館長の諮問機関である図書館協議会は、「指定管理を導入すべきでない」と答申しました。しかし、これに対して市教委は、当初「尊重する」としていましたが、途中から「参考にする」と方針転換してきました。

平成20年には、図書館法が改正され、「図書館の運営状況の評価」は、図書館協議会等を通じて地域住民の意見を反映することを求めています。これも実施することなく「指定管理ありき」で教育委員会自らが今年、事業評価をしたのです。また、中央図書館には「苫小牧の歴史を記す貴重な郷土資料」もあり、急ぎ博物館へ移す方針など思い付きで進めようとしています。更にパブリックコメントで提出された意見も簡素化し問題が無いように整理・要約するなど、多くの問題点を抱

えたまま条例案が可決されました。

私は、今議会に先立ち佐賀県武雄市と福岡県小郡市の図書館を5月28日に視察しました。

武雄市の図書館は、指定管理を導入したことで全国的に話題となっています。改装費7億5千万円のうち指定管理者(レンタル大手TSUTAYAの運営会社)に3億円負担させ、書店やカフェなどを併設し随意契約として長期運営を約束しています。実態は「街興しの起爆剤」として、公共施設である図書館を商業化したものと強く感じました。また、小郡市は市長公約で「読書のまちづくり日本一」を掲げ、指定管理から直営に戻しました。その上でサービスの向上とコスト削減を常勤嘱託職員採用で展望。ワーキングプアや不安定な雇用を避けるため直営で行うことにしたと聞きました。

図書館への指定管理制度の可否は、それぞれの街の経済状況や教育政策など様々です。集客力と活性化のためだけであれば、駅前に予定しているライブラリーカフェに民間の書店やコーヒー専門店などを充実させ、街中再生事業として取り組むことも出来ます。なぜ図書館協議会が「指定管理を導入すべきでない」と結論を出したのか丁寧に分析し、まずは教育施設である図書館のあり方、目指すべき将来像を検討すべきと考えます。

☆☆ 一般質問、トップバッターで登壇! ☆☆

6月議会は、6月20日(木)午後から一般質問に入りました。私はトップバッターとして登壇し、市長の政治姿勢として「市民参加条例」と「公の施設」のあり方、新保健センターの建設や道立苫小牧病院の廃止の問題点と職員採用の実態について質疑を交わしました。

- 1 政治姿勢
 - (1) 市民参加条例について
 - (2) 地方自治法による「特に重要な公の施設」について
- 2 福祉行政
 - (1) 苫小牧市保健センターについて
- 3 医療行政
 - (1) 道立苫小牧病院の廃止について
- 4 職員の採用について

